

(4) 環境・防災分科会

総論提言シート 「人と地球にやさしいまち（地球環境）」

(1) 将来かわごえ像	人と地球にやさしいまち（地球環境）
-------------	-------------------

理由

省エネや資源の再生が叫ばれ、地球温暖化防止や循環型社会の形成が論じられても、一般市民のライフスタイルの急激な変化を求め、その実践活動に期待することは、短期間ではなかなかできないであろう。この項の将来像では、温室効果ガスの規制や抑制対策が多い温暖化の防止策の中で、プラス思考の森林のガス吸収力に期待する提案がなされている。

(2) かわごえの現状

良い所

市役所の1%プラス1節電運動は継続され、ごみ減量化対策等はゆるやかながらすすんでいる。

×悪い所

しかしながら、一般市民、事業者を巻き込んでの、ベクトルを合わせての施策や活動は、まだまだ満足できるものとは言えない。

(3) 将来かわごえ像を実現するための知恵（施策）

CO₂の排出抑制と森林による吸収策（重要）

Ⅰ 各論提言シート

提言 施策名	CO ₂ の排出抑制と森林による吸収策（重要）	分科会名	環境・防災 分科会
理由	農地や雑木林の多い川越の特徴を生かした、地球温暖化防止策を推進する。		
現状	自然の再生をうたう雑木林の保全のみで、森林の大切さを広く一般市民に訴えるものがない。		
具体的な提言の内容			
No	事業名	詳細(実施主体)	実施 時期
1	森林づくりと樹林、樹木の植林	CO ₂ の排出の多い企業に植林義務を課す。(市、事業者)	
2	CO ₂ 排出量と雑木林再生取引制度(重要)	排出量に比例した雑木林の吸収分を企業に割り当て、再生保全を分担させる。(市、事業者)	
3	農業との連携による雑木林の保全	雑木林の手入れ樹木の伐採枝は堆肥化し、循環型農業をすすめる。合わせて市南部に多い休耕農地等の貸農園制度を確立、有機農業の拡大から雑木林の保全・再生を図り、CO ₂ の抑制にも寄与する。(市、関係機関)	

(1)将来かわごえ像	持続可能な循環型社会を目指すまち（循環型社会）
------------	-------------------------

理由

地球環境を守りながら、自然の資源をいつまでも使える社会づくりを達成するために、日常のごみ問題にどう取り組んでいくかは、最も基本的で重要な問題である。

これに対応していくために、あらゆる立場の人が工夫をこらすと同時に、これらの活動が互いに連繋しあって、より有機的な活動として機能するまちづくりをめざす必要がある。

また、不法投棄など、これらの活動を妨げる状況などに対しての監視体制も必要である。

(2)かわごえの現状

良い所

行政の家庭ごみ分別収集、布類の拠点回収、支援団体の資源ごみ集団回収など、いろいろな施策が行われ、ごみの分別、リサイクル方策が進められている。

×悪い所

川越のごみ事情は、ここ数年間の排出量で見ると大きな変動はないが、100g減量目標は達成されず、市民個々の生活形態が、使い捨て商品の増加などにより、ごみの排出量は増大することが懸念され、これに対する危機感は、市民全体に共通認識として充分浸透しているとは言えず、行政の取り組みも必ずしも満足なものとはなっていない。

(3)将来かわごえ像を実現するための知恵（施策）

ごみの排出量低減対策の強化（重要）

ごみ処理のための教育・研究・技術支援の強化（重要）

地域における監視体制の確立と強化（重要）

Ⅰ 各論提言シート

提言 施策名	ごみの排出量低減対策の強化（重要）	分科会名	環境・防災 分科会
理由	市民個々のごみの排出量の低減、再利用、リサイクルなどを、市民参加の統一された認識の下で、継続的に強化していかないと、地球への環境負荷の低減を足元から崩していくことになる。		
現状	行政が減量旗をふり、民間団体が音頭をとり、市民の踊りの輪が大きくなっていく図式が見えない。		
具体的な提言の内容			
No	事業名	詳細(実施主体)	実施 時期
1	ごみ減量化対策の強化	排出量減量に向けての市民啓発の促進策として、一般市民向けには、買い物袋持寄り、不用不急の包装拒否、過大包装防止アイデア募集など。また、事業者に対しては容器返却(デポジット制度)の普及などをすすめる。(市、民間団体、事業者)	
2	浄化槽付きディスプレイの普及	生ごみの減量策として、家庭用浄化槽付きディスプレイの規制を緩和、補助金支給等での普及を検討する。(市)	
3	家庭ごみの有料化制度導入(重要)	家庭ごみの有料化条令(指定有料ごみ袋)を制定し、ごみ減量化の市民啓発を図る。(市)	

II 各論提言シート

提言 施策名	ごみ処理のための教育・研究・技 術支援の強化（重要）	分科会名	環境・防災 分科会
理 由	ごみは、いろいろな段階を経て、最終的には地球に戻さなければ ならない。従って、地球に戻すまでの時間を再利用、リサイクル などによって長く保ち、地球に戻すときは地球に害を及ぼさない 姿にしなければならない。		
現 状	新しいもの、便利なものを求める傾向に対して、製品の寿命を少 しでも長く保つ精神、古いものを大切に作る機運はまだまだ高い と言えず、取り組むべき課題が多い。		
具体的な提言の内容			
No	事業名	詳細(実施主体)	実施 時期
1	リサイクルセンタ ーの機能拡充	リサイクル製品の開発・研究と、その一般 公開で市民を啓発する。 事業者には、ベンチャービジネスへの支援 及びスペースの提供等をすすめ、市民向け には、衣料、家庭用雑貨、玩具等の物々交 換も含めた、リサイクルショップの常設支 援とスペースの提供を図る。 また、リサイクル製品の割引制度等の導入 でその販売促進を図る。(市、市民団体、企 業)	
2	新清掃センターの 早期建設（重要）	既設焼却設備の老朽化にともない、次のよ うな機能を併設した新清掃センターの建設 をすすめる。 ・環境学習センター ・リサイクルセンター ・草木類堆肥化施設等 (市)	
3	小規模生ごみ発電 の推進	小規模のごみ発電を公共施設へ優先して適 用、民間施設へは、補助政策等で普及する。 (市、民間企業)	

III 各論提言シート

提言 施策名	地域における監視体制の確立と強化（重要）	分科会名	環境・防災 分科会
理由	持続可能な循環型社会を創るためには、決めたことを守り、作り上げた施設を維持・運営するための、市民による監視体制の確立が必要である。		
現状	不法投棄の防止等、種々の施策や活動に対する監視体制の、有機的な組織化が十分でないと思われる。		
具体的な提言の内容			
No	事業名	詳細(実施主体)	実施 時期
1	産業廃棄物や粗大ごみの不法投棄監視体制の確立	雑木林、河川敷、空き地などにおける不法投棄を禁止するための「不法投棄防止パトロール隊」制度を確立する。また、道路や市街地周辺の環境パトロールを強化する。これらの遂行に当たっては、通報・情報管理体制の確立、発見したごみ等の早期回収システムの構築も必要である。（市、自治会、民間団体）	
2	ごみポイ捨て禁止の制度化（重要）	ごみポイ捨て禁止、歩きたばこ禁止等を含めた迷惑行為禁止条例を制定する。（市、関係機関）	
3	資源ごみ横取り禁止の制度化（重要）	古紙やアルミ缶等の資源ごみの指定集積所における横取り禁止条例を制定する。（市、関係機関）	
4	一般ごみ廃棄ルールの周知徹底に関する制度	自治会役員、マンション管理者などに対して一般ごみ廃棄ルールの周知徹底を義務付ける。 （市、民間団体、関係企業）	

総論提言シート 「水とみどりの豊かなまち（保全と創造）」

(1) 将来かわごえ像	水とみどりの豊かなまち（保全と創造）
-------------	--------------------

理由

ますます都市化がすすむ生活環境の中で、市民にうるおいやレクリエーションをあたえ、さらには、防災や地球温暖化の防止にまで役立つと言われる水辺や緑の保全・創造施策は、自然の少ない川越にとって、重要課題の一つである。

市民の実感としても、まだまだ少ない公園緑地の、地区に偏らない市街地内の継続的な拡充が望まれる。

(2) かわごえの現状

良い所

雑木林の再生活用による公園や市民の森指定、樹木・樹林の保存策等を含めて、公園緑地策はすすめられている。

×悪い所

一人当りの都市公園面積などは、人口50万以下の中核市の中では最下位にランクされている表もある。市街化区域内の公園緑地が少なく、郊外の大規模公園にのみ目が向けられている。

(3) 将来かわごえ像を実現するための知恵（施策）

公園緑地の拡充対策（重要）

緑化の推進対策（重要）

Ⅰ 各論提言シート

提言 施策名	公園緑地の拡充対策（重要）	分科会名	環境・防災 分科会
理由	現在の川越の市民一人あたりの公園面積が、あまりにも少ない。また、子どもたちの森林、水辺の公園での自然観察体験等の機会を増やすためにも、水辺や緑の多い公園や緑地の拡充が望まれる。		
現状	現存する公園の整備や新規公園の完成が遅れがちであり、一般市民には公園そのものが広くピーアールされていない。		
具体的な提言の内容			
No	事業名	詳細(実施主体)	実施 時期
1	(仮)川越森林公園の早期完成(重要)	森林ビオトープとして10年以内に完成、次世代に残す。緑の基金、緑のパートナーを発展させ用地取得、森林保全のための市民参加を増やす講座等を開設する。(市、民間団体)	
2	初雁公園の整備(重要)	城址として整備、富士見櫓、堀等の復元を図る。(市)	
3	伊佐沼公園の早期完成(重要)	水辺のビオトープとして、自然の沼を生かした湿性動植物の保護、水辺に親しめ、子供の環境教育にも有効である。また、運動公園ともリンクさせることもできる。(市)	
4	新河岸川上流部の都市公園化	起点から氷川神社裏(宮下橋)までの旧赤間川流域を風致公園に指定する。(市)	
5	公園への交通アクセスの整備	駅からの遊歩道と自転車道を整備(休憩所を含む)し、市民の利用拡大を図る。安比奈親水公園や現伊佐沼公園等々(市)	

II 各論提言シート

提言 施策名	緑化の推進対策（重要）	分科会名	環境・防災 分科会
理由	市内の緑を増やすことにより、環境に配慮した、うるおいのあるまちが実現できる。また、大気汚染や地球温暖化防止、防災面にも寄与する。		
現状	市中心部に緑が少ない。また、保存樹林・樹木は減少傾向にある。		
具体的な提言の内容			
No	事業名	詳細(実施主体)	実施 時期
1	屋上緑化対策（重要）	マンション等の新設に伴う屋上緑化、周辺緑化を義務付ける。また、立体駐車場、空き地、神社や屋根、ベランダ等への緑化を啓発する。 （市、市民、事業者）	
2	校庭の芝生化（重要）	市内小学校の校庭を芝生化し、緑を増やすと同時に、周辺地域の粉塵被害緩和、緑の環境教育にも役立てる。（市、関係機関）	
3	緑化保全への補助金制度の充実	現行制度の、生け垣設置、保存樹木対象の他、一般家庭の庭木等の植木職人手間賃の一部を補助する。（市）	
4	市民の森の指定促進	緑地保全がしやすいよう条件整備、規制を緩和する。（市）	
5	街路歩道への植林推進	市内主要道路に街路樹地域を拡大する。 （市、関係機関）	
6	緑の基本計画の見直し	農地を含まない緑の計画見直しをする。 （市）	

(1)将来かわごえ像	環境の保全と創造に取り組むまち（保全と創造）
------------	------------------------

理由

健全で快適な生活を営むためには、澄んだ空気や安らぎを与える緑など、身近にある貴重な環境資源を破壊することなく育成保存するとともに、これらに調和した生活圏の創生が求められる。大気汚染やヒートアイランド現象を抑制するためには、エネルギー消費を節減すると同時に、排出ガス(CO₂)を吸収し温度の調節等に貢献する緑地を保存し、また積極的に緑化を推進することが望まれる。

一方、市民一人ひとりが環境問題の大切さの意識をもって生活構造を改善し、消費の減量化、省エネルギー化に努力することが必要であろう。

このためには市民レベルでの身近な勉強会・講習会等により環境問題に対して認識を共有するようにつとめることが大事である。

(2)かわごえの現状

良い所

総合計画、基本計画等各種計画を策定し、施策を展開している。

×悪い所

骨太の政策が見えず、施策の啓発等が一般市民に浸透していない。

(3)将来かわごえ像を実現するための知恵（施策）

大気保全と省エネルギーの推進

生活環境の保全と創生

環境学習施設・情報センターの整備（重要）

基本理念と環境制度の創設（重要）

Ⅰ 各論提言シート

提言 施策名	大気保全と省エネルギーの推進	分科会名	環境・防災 分科会
理由	<p>大気の汚染や地球温暖化の原因は化石燃料(石油)の燃焼が大きな要因と言われている。一方我が国のエネルギー構造にしめる石油消費量は大きく、国際的にも極めて高く、またその殆どを中東からの輸入に頼っている現状である。</p> <p>新エネルギーの開発と化石燃料への依存度を抑制し、大気の汚染防止に貢献する。</p>		
現状	<p>川越特有の道路環境から交通規制が未熟で、市街地の通行量は増加し、排ガス抑制策等は取られていない。</p> <p>一方、市民や企業を巻き込んだ省エネ対策も進まず、新エネルギーの開発も遅れぎみである。</p>		
具体的な提言の内容			
No	事業名	詳細(実施主体)	実施 時期
1	車の排出ガスの抑制	<p>車の乗り入れ規制区域の拡大、一方通行の拡大・導入を図り、渋滞による排ガスを規制する。</p> <p>また、連動式・スクランブル交差点信号の導入により渋滞を少しでも解消する。(市、関係機関)</p>	
2	省エネの啓発・奨励制度	<p>大口電力使用者が省エネ施設の導入・改善を図る場合の奨励制度の創設、事業者に省エネ目標値を設定(申告制)させ、目標値を達成した場合奨励金を交付する制度等を導入する。(市、関係機関)</p>	
3	新エネルギーの開発促進	<p>堤防・休耕地・作付け前の水田等に菜種を栽培し、油は学校給食等に使用する。廃油は回収し、再生して車の燃料等に使用する。事業化すれば雇用促進も期待できる。</p> <p>その他クリーンエネルギーの開発として、バイオ発電や焼却場の焼却熱を利用した発電技術を開発し、発生電力は公共施設に供給する。(市、関係機関)</p>	

II 各論提言シート

提言 施策名	生活環境の保全と創生	分科会名	環境・防災 分科会
理由	人が生活するために必要とする必須条件として、空気、太陽、水のほか衣・食・住が求められる。さらに快適な生活を営むためには自然の保全と、よりよい生活圏の創生が必要である。		
現状	商業圏の一極化や住宅開発の集中化などにより市内過疎化が発生している。一方、車輛交通の増加等により生活環境はあまり向上していないのが現状であろう。		
具体的な提言の内容			
No	事業名	詳細(実施主体)	実施 時期
1	新河岸川の湧水対策親水エリアとしての整備	湧水期には河床に流水がなくなる箇所があるので、滝の下汚水処理水の一部を上流まで圧送して流れを取り戻すとともに、周辺を親水エリアとして整備する。(市、県)	
2	公害苦情の処理	特に多苦情の中で原因究明の容易な騒音・悪臭について発生原因者への指導と対策を行う。 航空機騒音等は関係機関に調査対応を協議し、地域住民に対し経過説明を行う。(市)	

III 各論提言シート

提言 施策名	環境学習施設・情報センターの整備（重要）	分科会名	環境・防災 分科会
理由	環境学習の拠点（センター）の整備と環境情報拠点の整備をすると同時に市民一般を対象とした環境学習の常設講座を開設する。		
現状	最近の学習講座は約60講座，学習に利用できる施設は公民館等を含め26施設があるが、教材・資料等を常備する施設がない。		
具体的な提言の内容			
No	事業名	詳細(実施主体)	実施 時期
1	環境学習センターの創設（重要）	新しく建設する新清掃センターに環境学習センターを併設する。また、その運用をNPOに委託する。（市） 学習内容は、大人から子ども向けを考慮、一般的な環境問題や省エネ対策から専門的な森林の育成等幅広い分野とする。なお、必要な設備、器材を備え、体験学習も可能とする。（市、関係機関、民間団体）	
2	環境保全及び情報センターの整備（重要）	川越駅西口再開発に合わせて、「環境保全センター」「循環型社会情報センター」「防災情報センター」等を整備する。（市）	

IV 各論提言シート

提 言 施策名	基本理念と環境制度の創設(重要)	分科会名	環境・防災 分科会
理 由	<p>21世紀は環境の世紀と言われている。我々の住む世代に望ましい環境を実現し後世に引き継ぐため、官民一体となって環境の保全に努力する必要がある。</p> <p>中核市として独自の環境政策を施策としてもつべきであり、川越市の地域性・立地条件の独自性等を踏まえた制度・条例等を制定し、基本理念にもとついた行動を推進する環境先進都市となるべきである。</p>		
現 状	<p>中核市とはいえ、全市民を引きつける都市宣言やアピールが見当たらない。また、環境保護に取り組む制度も不足している。</p>		
具体的な提言の内容			
No	事業名	詳細(実施主体)	実施 時期
1	環境都市宣言の発令	市民の福祉と環境に配慮したまちを協調する都市であることを宣言し、総合計画・基本計画にも取り入れる。(市)	
2	環境アセスメント制度の創設(重要)	行政としては上位法令により準拠して許認可・指導を行っているが、川越市の特性に基づく環境影響評価制度を創る必要がある。(市)	
3	環境貢献者報奨制度の創設	環境に関する技術の開発・運用や環境活動に貢献した個人・事業者を報奨する。(市)	

総論提言シート 「安心、安全な交通環境の充実したまち（保全と創造）」

(1)将来かわごえ像	安心、安全な交通環境の充実したまち（保全と創造）
------------	--------------------------

理由

身近な生活圏で日常的に増え続ける道路交通災害に対し、歩行者・自転車が安全で、機能的な通行が出来る環境にやさしい道路の交通体系を整備する。

一方、国・県の所管幹線道路は、規格いっぱいの交通量がありさらに増加の傾向にあり、バイパス・あるいは市街地を迂回する環状道路の計画があるが、このような場合、市は住民の立場から周辺環境に対する協議と住民合意に積極的に参画する必要がある。

(2)かわごえの現状

良い所

交通安全対策のうち、啓発運動等は、行政、市民が一体となった体制で進められている。

×悪い所

市の歴史的地理特性から、交通環境の改善はままならず、交通安全教育の不充分さや標識・表示等の未整備が目立ち、自転車通行や高齢者配慮の歩道の整備が遅れている。

(3)将来かわごえ像を実現するための知恵（施策）

安全で環境にやさしい道路の整備（重要）

Ⅰ 各論提言シート

提言 施策名	安全で環境にやさしい道路の整備 (重要)	分科会名	環境・防災 分科会
理 由	身近な生活圏で日常的に増え続ける道路交通災害に対し、歩行者・自転車が安全で、機能的な通行が出来る環境にやさしい道路の交通体系を整備する。		
現 状	市内の道路は、必ずしも交通弱者に配慮されているとは言えず、交通事故は低減されず、一方、中心市街地、郊外を問わず路上や周辺の街美化は進んでいない。		
具体的な提言の内容			
No	事業名	詳細(実施主体)	実施 時期
1	自転車・歩行者にやさしい街路の整備 (重要)	官民共同の駐輪場を整備することと、自転車・歩行者が安心して通行できる交通体系を創る。たとえば、一方通行の導入・歩車道の分離などの整備を図る。(市、関係機関)	
2	北環状線建設に伴う環境対策(重要)	北環状線は計画決定しているが、日照権・道路公害等について住民と合意形成のうえ整備すべきである。(市・県)	
3	クリーン作戦の強化	全市的に、たばこの吸殻のポイ捨て・歩きたばこの禁止の強化を図り、条例化等を検討する。また、土砂・ごみ等が堆積して機能を維持しない道路側溝の整備を常にすすめる。 一方、市街地、商店街の迷惑看板や放置自転車等の強制撤去対策を強化する。 また、道路交通に支障となる生垣・塀等の適正維持を指導する。(市、自治会、関係機関)	
4	歩車分離信号の導入	歩車共用信号は歩行者の安全には万全とは言いがたい。幹線道路については、歩車分離信号を主要交差点に導入して歩行者の安全を図る。(市、関係機関)	

(1)将来かわごえ像	市民・行政の協働で築く災害に強いまち（防災）
------------	------------------------

理由

震災、風水害等の自然災害や大規模火災から市民の生命、身体及び財産を守るための、災害予防や災害応急対策、復旧対策の根幹をなす、あらゆる災害に対処できる官民協働の防災体制のさらなる整備が望まれる。ともすれば、横の連携に乏しく、ばらばらに働きやすい連絡、救援、避難体制については、効率よくその機能が発揮できるよう持続的な整備を怠ってはならない。

また、最近の災害に顕著な災害弱者（高齢者、障害者等）への救援体制等の整備も不可欠である。

(2)かわごえの現状

良い所

「地域防災計画」は策定され、総合防災訓練等も実施されている。

×悪い所

防災計画は、一般市民に必ずしも情報化されておらず、防災訓練も全市民向けの訓練、啓発には課題がある。

(3)将来かわごえ像を実現するための知恵（施策）

防災体制の整備と機能の強化（重要）

持続的防災訓練の実施

避難・連絡体制の強化

災害備蓄用品・資機材等の充実

Ⅰ 各論提言シート

提言 施策名	防災体制の整備と機能の強化（重要）	分科会名	環境・防災 分科会
理由	防災計画の諸施策と連携し、防災関係機関の統合拠点のみでなく、市民向けに情報を発信し、市民の防災活動の拠点ともなる防災センターや、時代に即応したきめこまかな災害防止対策が望まれる。		
現状	「地域防災計画」の一般市民向け周知不足や情報不足で、時代に即応した市民参画の防災体制がとられているとは言えない。		
具体的な提言の内容			
No	事業名	詳細(実施主体)	実施 時期
1	防災情報センターの新設（重要）	川越駅西口地区の再開発に合わせて、防災活動の拠点となる防災情報センターを設置する。 合わせて防災空間を確保する。（市、防災関係機関）	
2	自主防災組織の整備強化（重要）	市内居住地区の環境実態に見合った、自主防災組織を確立、専門関係機関による指導、訓練を強化する。（市、市民、自治会、）	
3	ボランティア受入れ制度の確立	災害応急対策や復興対策に欠かせない、若者を中心としたボランティアの呼びかけや受入れシステムをつくる。（市、自治会、防災関係機関）	
4	他自治体との援護体制の強化	聴覚障害者向けの手話通訳者の派遣等、障害者救護の相互支援体制を強化する。（市）	
5	危険物等特殊災害に対応する体制の強化	有害化学物質等危険物に起因する災害の予防と防災対策を強化する。（市、企業、関係防災機関）	

II 各論提言シート

提 言 施策名	持続的防災訓練の実施	分科会名	環境・防災 分科会
理 由	ややもすると、パフォーマンスが優先しがちな防災訓練は、陳腐化しやすいので、住民の参加が得やすい防災訓練を定例実施する必要がある。		
現 状	一部関係者や関係機関の訓練と受取られ、備えあれば憂いなしの、住民の防災意識の啓発の場になっていない。		
具体的な提言の内容			
No	事業名	詳細(実施主体)	実施 時期
1	地区単位の防災訓練制度	総合防災訓練の外に、市内地区単位の居住特性に合った防災訓練を定例化する。(市、関係防災機関)	
2	災害事例講習会の開催	変化する災害態様に対処するため、データの正しい理解と市民の防災意識啓発を目的に、シンポジウムを随時開催する。(市、関係防災機関)	

III 各論提言シート

提 言 施策名	避難・連絡体制の強化	分科会名	環境・防災 分科会
理 由	市民にとって、災害発生時に最も必要な情報となる、避難方法や連絡方法は、より細かな対策が望まれる。		
現 状	川越市民の、大規模災害の体験不足のせいか、避難方法や連絡体制が確立され、周知されているとは言えない。		
具体的な提言の内容			
No	事業名	詳細(実施主体)	実施 時期
1	第2避難所の指定	避難が長引く場合に備えて、高齢者、障害者向けの第2避難所を設け、集合的に対処する。(市)	
2	防災情報連絡方法の改善	高齢者、障害者等に対して、行政無線を補完する携帯サイト、ファックス等の連絡方法を採用する。(市)	
3	災害発生場所・被災者の位置確認方法の改善	GPSを採用、市内全域を網羅したモニター(地図)で、通報・受信の効率化を図る。(市、関係防災機関)	

IV 各論提言シート

提 言 施策名	災害備蓄用品・資機材等の充実	分科会名	環境・防災 分科会
理 由	災害発生時の被災者救護や避難時に欠かせない備蓄用品等は、高齢者や障害者等も配慮した用品の配備と、一般市民への情報が必要である。		
現 状	住民に対する、備蓄場所や備蓄品目の情報提供が不十分である。		
具体的な提言の内容			
No	事業名	詳細(実施主体)	実施 時期
1	災害弱者向け備蓄品の充実	高齢者、障害者向けの、小型特殊乾電池等も備蓄、管理する。(市、関係防災機関)	
2	救済物資の緊急輸送体制	入間川等近隣河川を利用した、物資や備蓄品の輸送路の確保、近隣自治体との共同設営も考慮する。(市、関係防災機関)	
3	緊急時の給水確保の強化	市内町家の井戸を指定し、非常用ポンプによる給水の確保に共する。(市、市民、関係防災機関)	

総論提言シート 「消防・救急対策が充実したまち（消防・救急）」

(1)将来かわごえ像	消防・救急対策が充実したまち（消防・救急）
------------	-----------------------

理由

安全、安心のまちづくりで、市民がより身近に感ずる、初期消火や類焼防止、局地的水害あるいは事故時の応急対策等は、行政のしっかりした組織的な体制とともに市民の協働が必要である。

消防、水防、救急対策について、市民が協力できるきめこまかな防災計画が必要であろう。

(2)かわごえの現状

良い所

消防・救急体制やはしご車等の装備も逐次整備強化されている。

×悪い所

消防署、消防団と自警消防組織等が複雑で一般市民に理解しにくい。

(3)将来かわごえ像を実現するための知恵（施策）

消防・救急体制の整備強化（重要）

Ⅰ 各論提言シート

提 言 施策名	消防・救急体制の整備強化（重要）	分科会名	環境・防災 分科会
理 由	一般市民が理解しやすく、容易に協力できる消防・救急体制の整備が望まれる。		
現 状	特に消防体制が複雑で、市民に広く周知されているとは思えない。		
具体的な提言の内容			
No	事業名	詳細(実施主体)	実施 時期
1	消防組織の整理統合（重要）	既設の消防署、消防団、自警消防及び自主防災を含めて、役割分担を明確にし、必要によっては整理統合し、その機能を強化する。 （市、関係機関）	
2	救急訓練・講習の強化	子ども指導者対象の四季の活動に応じた、応急処置訓練・講習会の実施（市、消防署）	